



# LOGOS 二刀流グリル

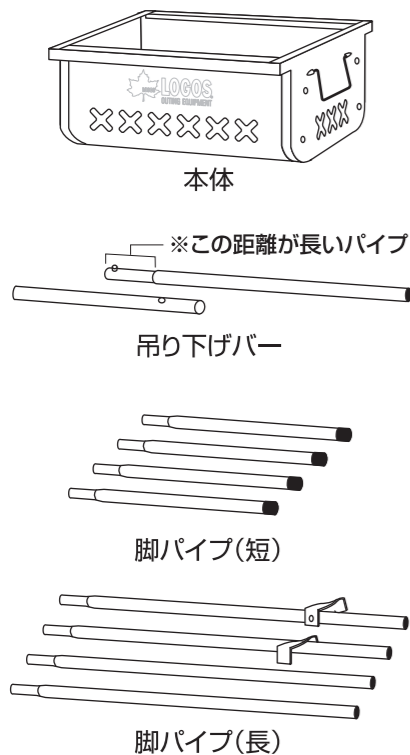
No.81062010

〔部品構成表〕

脚接続A	(2)	S字フック(大)	(1)
脚接続B	(2)	S字フック(小)	(1)
本体	(1)	吊り下げバー	(1セット)
脚パイプ(短)	(4)	焼き網	(1)
脚パイプ(長)	(4)	ロストル	(1)
		蝶ネジ(短)	(4)
		蝶ネジ(長)	(4)
		蝶ナット	(8)

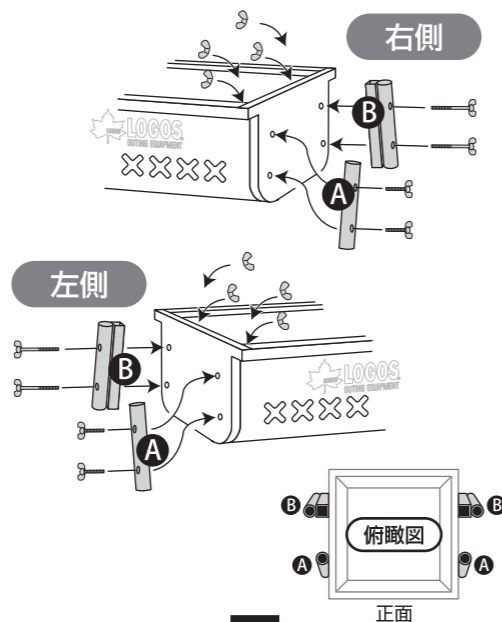
※必ず手順通りに組み立ててください

## パーツリスト



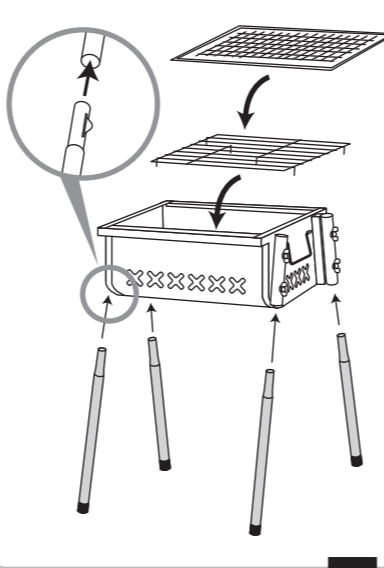
## 組み立て方法

①本体両側に脚接続部A及びBをネジ止めします。パイプが1本のAは蝶ネジ(短)で、パイプが2本溶接されたBは蝶ネジ(長)で固定します。また、必ず正面側にAが来るようにし、左側も同様に取付けてください。



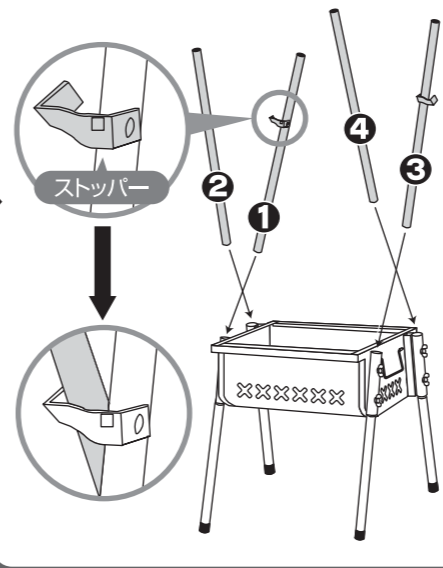
## ローポジション(BBQ仕様)

②それぞれの脚接続部に脚パイプ(短)を差し込み取り付けます。ロストルを本体内にセットし焼き網を載せてご使用ください。



## ローポジション(吊り鍋料理仕様)

③脚パイプ(長)を逆さまの状態に脚接続部上部に差し込みます。その際、挿入順序やストッパーの向き(屈折部分が外側)に十分ご注意ください。



④吊り下げバーは挿入部分の根元までしっかりと挿入します。その際、ロックボタンがもう片方の穴からカチッと音がして出るまで回しながら差し込んでください。



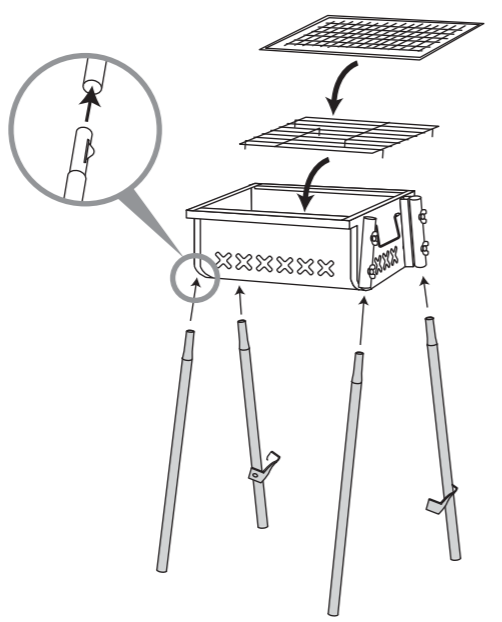
⑤吊り下げバーを脚パイプ(長)に載せ、加重を加えたと水平になります。ならない場合は脚を回転させストッパーの角度を調整してください。



※ダッチオーブンは別売です。

## ハイポジション(BBQ仕様)

②それぞれの脚接続部に脚パイプ(長)を差し込み取り付けます。ロストルを本体内にセットし焼き網を載せてご使用ください。



## お使いになる前に...

- 〔炭の着火方法〕
- 1.火床の中心に着火剤を置き、その上に空気の通り道を作りながら炭を積み上げてください。(ジェル状着火剤は最下部の炭上に塗ってください。ジェル状着火剤は非常に危険です。継ぎ足しはお止めください)
  - 2.柄の長いライター等で着火剤に着火してください。
  - 3.うちわ等で風を送り込んでください。(強風厳禁)
  - 4.全ての炭が着火状態のを確認した後、火床上にまんべんなく広げてください。所々炭が二重に重なるくらいが適量です。
  - 5.備長炭の着火は、着火状態の木炭の上に置いて着火すること。いきなり備長炭では着火しません。また、備長炭は着火時にはぜるのでご注意ください。必ず焼き網でカバーしながら着火し、離れたところで見守ってください。
- 〔薪の着火方法〕
- 1.火床の中心に着火剤を置き、その上に空気の通り道を作りながら薪を積み上げてください。(ジェル状着火剤は最下部の薪上に塗ってください。ジェル状着火剤は非常に危険です。継ぎ足しはお止めください)
  - 2.柄の長いライター等で着火剤に着火してください。
  - 3.うちわ等で風を送り込んでください。(強風厳禁)

- ※木炭着火後、まず火床塗装が焼けはじめ煙りが出ます。煙りが無くなり塗装が焼け終わってから調理を開始してください。

## ▲使用上の注意

- 製品には鋭利な部分があります。分解、組立、着火、消火、手入れの際は必ず革手袋を洗浄時はゴム手袋を着用し、ケガをしないようご注意ください。
- 禁止! 使用前に必ずパーツの破損、溶接外れ等が無いかご確認ください。破損が見つかった場合はご使用にならないようお願い致します。
  - 禁止! 着火後のグリル移動は絶対におやめください。落下や分解などにより事故につながる可能性があります。また、使用中のグリルは素手で触らないでください。
  - 禁止! 着火後は、炭がはぜたり火の粉が飛び出す場合がありますので、顔などを近づけたり、燃えやすいものの周りで使用する事はお止めください。
  - 禁止! 着火剤や燃料として、ガソリン、灯油、ガス、アルコール等は、絶対に使用しないでください。危険です。
  - 禁止! 屋内やテント内又タープの下では使用しないでください。
  - 禁止! 風が吹いている時は絶対に焚き火は行わないようにしてください。炎があおられた際非常に危険です。
  - 禁止! 使用中はお子様やペットを器具の周りで遊ばせないでください。
  - 禁止! 未使用時であっても吊り下げパイプに物を吊った状態でグリル移動する事は絶対におやめください。事故につながる可能性があります。
  - 警告! 鍋の取り外しや、調理、炭や薪の継ぎ足し時等、取扱いの際は必ず革手袋を着用し、火床に誤って触れないようご注意ください。

- 警告! 焚き火を行う際は事故防止のために、必ず消火用の水をバケツ等に入れて側にご用意ください。
- 警告! 使用後の残り火の始末は、完全に燃え尽き、グリルや火床が冷えたことを確認した後、灰処理、撤収の作業を行ってください。
- 警告! 消火のために器具に水をかける事は厳禁です。急激な温度変化により器具の変形や、高温の水蒸気が発生し、火傷の恐れがあります。
- 警告! 吊り下げた鍋を前後左右に揺らす事はおやめください。荷重と振動によりグリルが転倒する恐れがあります。
- 注意! 焚き火を行う際は燃料の入れ過ぎにご注意ください。入れ過ぎると炎が高く上がり大変危険です。
- 注意! 変型やひどい変色につながるため燃料の入れ過ぎにご注意ください。
- 注意! ロストルや焼き網は消耗品です。1度のご使用で変形いたしますので、ご了承ください。
- 注意! 本品は組立式です。その為、組立時など指などを挟まないようご注意ください。
- 注意! 塗装の施された本体や火床は高熱によって部分的に塗装が変色したり剥げ落ちます。ご了承ください。
- 注意! 吊り下げバーの目安耐荷重(静止荷重)は、約20kgとお考えください。

